

## 第4回 NBRP ゾウリムシ運営委員会議事録

日時：平成27年10月16日（金）15時00分～17時00分  
（受付開始：14時30分）

場所：山口大学吉田キャンパス 総合研究棟3階フォーラムスペース

出席委員（敬称略）：児玉（委員長、島根大学）、岩井（弘前大学）、柳（石巻専修大学）、道羅（静岡大学）、石田（奈良教育大学）、堀（山口大学）、岩楯（山口大学）、中村（山口大学）、田中（山口大学）、藤島（山口大学）

欠席委員（敬称略）：芳賀（副委員長、石巻専修大学）、遠藤（金沢大学）、島野（法政大学）

その他の出席者（敬称略）：佐藤（日本医療研究開発機構バイオバンク事業部）、萩原・藤井（山口大学研究プロジェクト係）、田丸（山口大学研究推進戦略部URA室）、背戸・末益（山口大学研究契約係）、高藤（山口大学理学部総務企画係）、中村・栗栖（山口大学理学部予算管理係）

### 1. 参加者紹介

課題管理者の藤島委員から机上配布物の説明と参加者の紹介が行われ、会議の成立要件（委員の過半数の参加）を満たしたことが報告された。

### 2. 日本医療研究開発機構（AMED）バイオバンク事業部基盤研究課挨拶

AMEDの佐藤様からNBRPの組織と業務内容の説明、最近の外部状況及び今年度と来年にかけての行事等の説明があった。

### 3. 報告事項

#### （1）平成26年度の活動報告と平成27年度の活動の中間報告

課題管理者からPPTスライドと配布資料を用いて下記の説明が行われた。26年度の中間評価で指摘されたバックアップ体制の強化については、島根大学と石巻専修大学に加えて、弘前大学とドレスデン工科大学が引き受けた。収集・保存・提供の目標値は順調に達成している。モノクローナル抗体は保存抗体の種類が整理が終わり、現在、抗体価を調べている。リソースの新たな利用分野として、水質浄化と稚魚の飼料としての利用が増えつつある。交雑によってsyngen 12の子孫をとった。培養法に関する質問が多いので、研究室のホームページに培養液の作成法の掲

載を始めた。ゲノム情報が得られる株名と文献をホームページに明記した。広報活動の状況、予算の使用予定内訳と成果論文の状況が報告された。成果論文は2012年度6月以降に17報あり、原著論文が14報、著書・総説が3報、インパクトファクター3以上の原著論文は8件あったことが報告された。これらについて特に質問はなかった。

(2) その他

委員長から他の報告事項の有無を求められたが特になかった。

4. 協議事項

(1) 活動の改善について

課題管理者から PPT スライドを用いて説明があった。次の中間評価のコメントを事業年度内にクリアしなければならない。それらは、凍結保存技術の開発、保存株データ情報の整備、活発な広報活動、提供可能株の拡張であった。これは順次、改善をしている。さらに、中間評価では育の観点からも活用法を考える必要があるという指摘を受けた。専門家が利用できるゾウリムシの図鑑を作成したいということが述べられた。

(2) 来年度（最終年度）以降の代表機関課題管理者について

課題管理者から、第3期の5年目（来年度）に現在の課題管理者が定年となるが、山口大学理学部は現在の課題管理者を特命教授にすることを検討中なので、課題管理者の継続を承認してほしい旨の提案があり、特に反対意見はなく了承された。

第4期NBRPへの申請については、来年度の運営委員会までに検討し、運営委員会で協議して決定することになったが、課題管理者から、第3期の申請の際には、申請書に課題管理者の過去5年間の研究業績記載欄が1頁あり、さらに代表機関の強力な協力が求められているとの説明があった。

(3) その他

委員長から他の報告事項の有無を求められたが特になかった。

5. ゾウリムシ系統保存施設（総研棟101号室）の見学

運営委員会の終了後、会議の参加者によるゾウリムシ系統保存施設の見学が行われた、